

トピックス

国公立大学ガイドブック ——昭和59年度版——

国公立大学ガイドブックの昭和59年版が、さる9月中旬刊行の運びとなった。このガイドブックは、国公立大学を志願する者が、その進路決定に当たり、共通1次試験の自己採点に基づく合格可能性ばかりにとらわれないで自己の将来を見定め、大学で何を学ぶかという目的意識や志をたて、それに最も適した大学を選択できるよう、大学側から積極的に情報を提供しようというものである。昭和54年6月の国立大学協会の決定に基づき、大学入試センターが編集事務を担当し、今回まで5回刊行している。

昭和59年度版では、昭和58年度版から登場した学長からのメッセージ「受験生の諸君へ」に加え、各大学にPR用のスペースとして、1ページを用意した。このスペースの利用のしかたは、各大学の自由ということで依頼したが、それぞれの工夫のあらましを紹介し、参考としたい。

- 在学生からの呼びかけ——国立3大学、公立7大学
- 写真（拡大写真、枚数の増）——国立13大学、公立3大学
- イラスト——国立6大学
- 教育研究・学生生活——国立20大学、公立8大学
- 学歌など——国立2大学、公立2大学
- キャンパス・施設——国立9大学、公立3大学
- 受験生諸君へ（学長）の充実——国立5大学、公立3大学
- 内容一般の充実——国立9大学、公立3大学

（※ 二つ以上に該当する大学もあるので、上記の数は延数である。）

なお、前年度版と比較してみると、ほとんど変更のない大学が、国立で27大学、公立で10大学あり、全大学の30%近くになる。それぞれに理由があることと思われるので、その当否を論ずべきことではないと思われるが、「PR」誌としては、いかがなものであろうか。